



きれいなまちを維持することで、ポイ捨てしにくい環境づくりに貢献します。

道路舗装業をはじめ、土木建設業や不動産業を展開する(株)NIPPO。全国に点在する事業所では、それぞれの地域で地元貢献活動に積極的に取り組んでいます。東北支店も2006年に「仙台まち美化サポート・プログラム」に参加し、清掃活動を続けています。その様子を伺いました。

ごみが捨てられるのは、人の目の届きにくい場所。

— 清掃活動を始めたのは、どんなきっかけからだったのですか。

2006年6月、社会貢献活動の一つとして、地域のために何かできることをしようと、「仙台まち美化サポート・プログラム」に参加しました。以来、基本的には毎月1日の朝礼後、約30分間、青葉区木町通にある私たちの事業所周辺を電話対応の社員以外の全員で清掃しています。

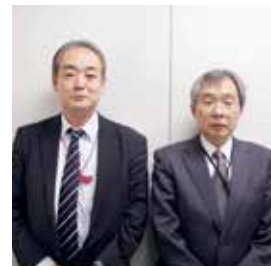
— コースは決まっているのですか。

はい。事業所の東側が晩翠通、北側には北三番丁公園があり、西側は駐車場になっているのですが、まさに私たちの事業所が入るビルを、ぐるりと一周するように、500メートルほどのコースを決めています。

— 長年、清掃活動を続けてこられて、ごみの種類や、ごみが多く落ちている場所に変化はありましたか。

種類や場所という観点では、目立った変化はないですね。ただし、全体的に量が減っているのを実感しています。いまだに多いタバコの吸い殻でさえ、ひと昔前と比較すると、少なくなっているような気がします。

一方で、晩翠通の中央分離帯に、ポイ捨てされているペットボトルや缶が多く見られます。歩行者が散歩するようなどころではないので、車の窓から捨てているのでしょうか。ポイ捨ての現場を見たことがないのでわかりませんが、人の目が届きにくい場所は、ポイ捨ての罪悪感が少し軽くなるのかもしれませんが。このことから、普段からごみのない、きれいな環境を維持することが大切なのだと思います。私たちの活動が、その一助になっていれればいいです。



管理部長

大塚 俊幸さん

神奈川県出身。趣味はゴルフ。
(写真 左)

総務担当課長

兵藤 清司さん

宮城県出身。趣味はバイク(ハーレー)でのツーリング。
(写真 右)



清掃活動の日に着用しているユニフォーム。「NIPPO」のロゴが際立っています。



晩翠通に設置されている、(株)NIPPOが「仙台まち美化サポーター」として活動していることを示す立て看板。

美化活動は日課であり、「当たり前のこと」になっています。

— 日本全国でさまざまな道づくりを手がけていらっしゃるの、お仕事柄、道路をきれいにしたいという、特別な思い入れのようなものがあるのではないのでしょうか。

特別な思い入れがあるというよりは、毎月のルーティーン、「当たり前のこと」になっています。それよりも、「この道路のここが傷んでいるな」というように、道路そのものの状態に注目してしまうことがしばしばあります(笑)。

— 活動に関して、工夫していることはありますか。

1日が祝日や休日の場合には、その翌日に実施していますが、活動予定日に雨や雪が降った場合は、なるべく別の日に実施するようにしています。と申しますのも、社内における「環境目標」の項目の中に清掃活動も入っておりまして、その達成目標を「90%以上」と設定しているんです。少なくとも11回、実施することが目標達成の条件となりますので、その点でも代替え日を設定、周知して、必ず月に1回、実施するようにしています。

— 会社や団体、個人でも「清掃活動を始めたい」と思っている方々に、メッセージをお願いします。

私たちにとっては「毎月のルーティーン」になっている清掃活動ですが、やはりごみを拾った後、道路や公園がきれいになったのを見るのは気持ちが良いですし、やりがいを感じます。また清掃活動を続けることで、ごみをポイ捨てしにくい環境が醸成されることを願っています。そして、この仙台がごみのない、美しいまちになれば良いと思っています。

【株NIPPOのごみ拾いスタイル】 系の社員が清掃用具を事前に準備。30分の活動時間をフル活用しています。

夏の暑い時期以外は、背中に「NIPPO」と書かれた緑色のユニフォームを着用。清掃活動を行っていることを周囲に知らせることで、少しでも「ポイ捨て」の抑止になるよう配慮しています。毎回、系の社員の方が用具を準備。軍手とごみ袋、火ばさみを手に、黙々とごみを拾うのがNIPPOのごみ拾いスタイルです。



ポイ捨てごみが多い植え込みは、丹念に清掃します。



事業所のビル1階エレベーターホールに用具を準備。ここから、ふた手にわかれてスタートします。